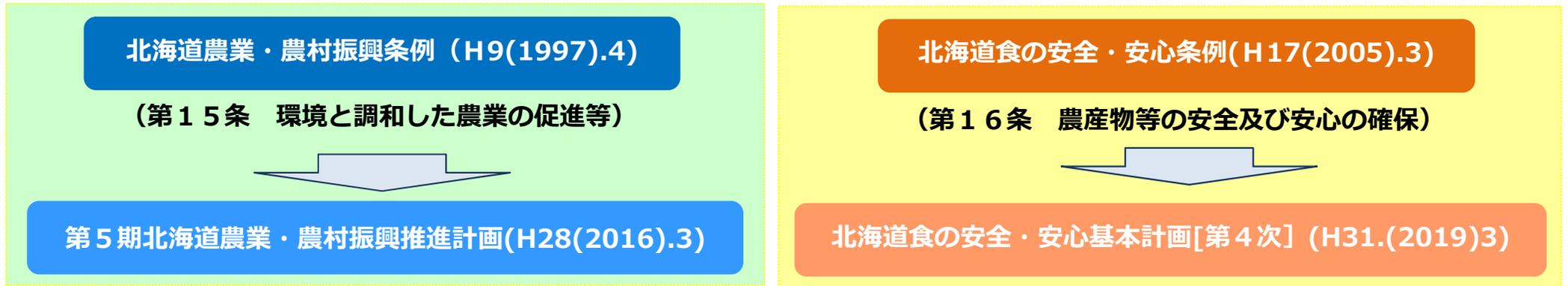


II - 1 北海道有機農業推進計画（第3期）

- 「有機農業推進法」第7条1項の規定に基づく「都道府県推進計画」。
- 北海道食の安全・安心条例に基づく「北海道食の安全・安心基本計画」及び北海道農業・農村振興条例に基づく「北海道農業・農村振興計画」に定めた有機農業の推進について、施策の具体的な展開方向に関する計画。

■ 北海道有機農業推進計画(第3期)の位置づけ



■ 有機農業推進法

【国の基本方針の推進目標】

- ①我が国の耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を倍増（1%）
- ②有機農業の技術体系の確立
- ③有機農業の普及指導体制の整備（全都道府県）
- ④有機農業に対する消費者の理解の増進（有機農業を知る消費者の割合が50%以上）
- ⑤有機農業に関する推進体制の整備（全都道府県と50%以上の市町村）

施策の具体的な展開方向に関する計画

都道府県計画

北海道有機農業推進計画 [第3期] (H29(2017).3)

◆ 基本的な推進方針 ◆

- ① 有機農業技術の開発・普及
- ② 有機農業への参入・定着の促進
- ③ 有機農業を核とした新たな展開
- ④ 有機農産物の販路の確保
- ⑤ 有機農業への理解の醸成

◆ 目標 H29(2017)～R3 (2021) ◆

(生産面)有機農業の取組面積

5,000ha → 6,500ha

(消費面)有機農業に関する認知度

30% → 50%

II - 2 北海道有機農業の現状 ①【面積・経営体】

- 全道の有機農業取組面積を振興局別に見ると、オホーツク、上川、十勝の順に多く、この3振興局で約6割を占める。経営体数で見ると、上川、空知、オホーツク、石狩、十勝の順。
- 有機農業者の平均年齢は55歳。道南や道北で比較的高い傾向にある。

■ (総合) 振興局別有機農業取組面積(R3(2021)年3月31日現在)

(単位:ha)

	全道	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	オホーツク	十勝	釧路	根室
有機栽培面積①	5,173	209	285	108	58	201	373	166	787	13	4	1,490	789	469	221
うち有機JAS	4,007	134	203	92	49	201	334	157	572	13	2	1,052	508	469	221
うち非有機JAS有機	1,167	75	82	17	9	0	39	10	216	0	2	437	281	0	0
(有機を含む経営面積計)	8,145	622	807	385	92	201	448	167	1,496	38	4	1,915	1,206	541	221
<参考>															
R2耕地面積②	1,143,000	113,700	40,900	34,600	34,400	38,800	24,100	19,000	130,500	25,800	62,400	166,000	254,800	88,500	110,200
有機割合(①/②*100)	0.45%	0.18%	0.70%	0.31%	0.17%	0.52%	1.55%	0.88%	0.60%	0.05%	0.01%	0.90%	0.31%	0.53%	0.20%

■ (総合) 振興局別有機農業取組経営体数(R3(2021)年3月31日現在)

(単位:戸)

	全道	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	オホーツク	十勝	釧路	根室
有機栽培経営体数①	419	56	54	37	20	4	22	19	82	6	3	55	53	5	3
うち有機JAS	285	31	30	28	15	4	15	11	62	6	1	47	27	5	3
うち非有機JAS有機	171	32	30	12	7	0	8	8	33	1	2	10	28	0	0
①の農業者平均年齢	55	55	52	56	53	60	61	58	57	64	56	55	55	56	53
〃 後継者あり	99	11	12	9	2	2	7	4	16	1	0	18	15	2	0
〃 後継者確保率	23.6%	19.6%	22.2%	24.3%	10.0%	50.0%	31.8%	21.1%	19.5%	16.7%	0.0%	32.7%	28.3%	40.0%	0.0%
<参考>															
R2農家戸数②	30,566	5,306	1,910	2,016	1,452	1,116	1,410	940	5,291	664	603	3,361	4,511	923	1,063
有機農家の割合	1.4%	1.1%	2.8%	1.8%	1.4%	0.4%	1.6%	2.0%	1.5%	0.9%	0.5%	1.6%	1.2%	0.5%	0.3%
(後継者確保率)	21.1%	19.6%	19.6%	16.2%	18.3%	19.7%	20.4%	12.7%	17.6%	21.8%	21.6%	25.2%	25.7%	28.8%	27.1%

※「有機栽培面積」「有機栽培経営体数」は北海道農政部調べ(「うち有機JAS」の数値は、報告主体及び調査基準日の違い等により、6ページの農林水産省調べの数値とは異なる)

<参考>の耕地面積:農林水産省「耕地及び作付面積統計」、農家戸数:農林水産省「農林業センサス」

II - 3 北海道有機農業の現状 ②【1戸あたり面積・専業率】

- 有機農業取組面積は1戸あたり11.3ha、慣行農業等も含む経営面積は1戸あたり19.4 ha。
振興局別の1戸あたりの有機農業取組面積の大きい釧路、根室、日高は、牧草の割合が高いことによるもの。
- 有機農業取組経営のうち有機専業戸数267戸、専業率は58.7%。

■ (総合) 振興局別1戸あたり有機農業取組面積 (R3(2021)年3月31日現在) (単位:ha)

	全道	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	オホーツク	十勝	釧路	根室
1戸当たり有機栽培面積①	11.3	3.3	4.8	2.7	2.6	50.2	16.2	8.8	8.3	1.9	1.3	26.1	14.3	93.8	73.7
うち有機JAS	14.1	4.3	6.8	3.3	3.3	50.2	22.3	14.2	9.2	2.2	2.3	22.4	18.8	93.8	73.7
うち非有機JAS有機	6.8	2.4	2.7	1.4	1.3	—	4.8	1.2	6.5	0.0	0.8	43.7	10.0	—	—
(有機を含む経営面積計)	19.4	11.1	14.9	10.4	4.6	50.2	20.4	8.8	18.2	6.3	1.3	34.8	22.8	108.3	73.7

■ 有機農業取組経営体の有機専業率 (R3(2021)年3月31日現在) (単位:戸、%)

	全道	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	オホーツク	十勝	釧路	根室
有機栽培経営体数	455	62	60	40	22	4	23	19	95	7	3	57	55	5	3
うち有機専業	267	36	28	21	18	4	16	18	42	5	3	33	36	4	3
有機専業率	58.7%	58.1%	46.7%	52.5%	81.8%	100.0%	69.6%	94.7%	44.2%	71.4%	100.0%	57.9%	65.5%	80.0%	100.0%

※北海道農政部調べ(市町村への調査結果)

II - 4 北海道有機農業の現状 ③【品目別】

- 品目別有機農業取組面積は、牧草、そば、大豆、かぼちゃ、水稻、ばれいしょの順に大きい。
- 麦・豆類は、585haで、このうち大豆(292ha)が49.9%を占める。
- 野菜類は、851haで、このうちかぼちゃ(282ha)とばれいしょ(157ha)で51.6%を占める。

■ (総合) 振興局別品目別有機農業取組面積(R3(2021)年3月31日現在)

(単位:ha)

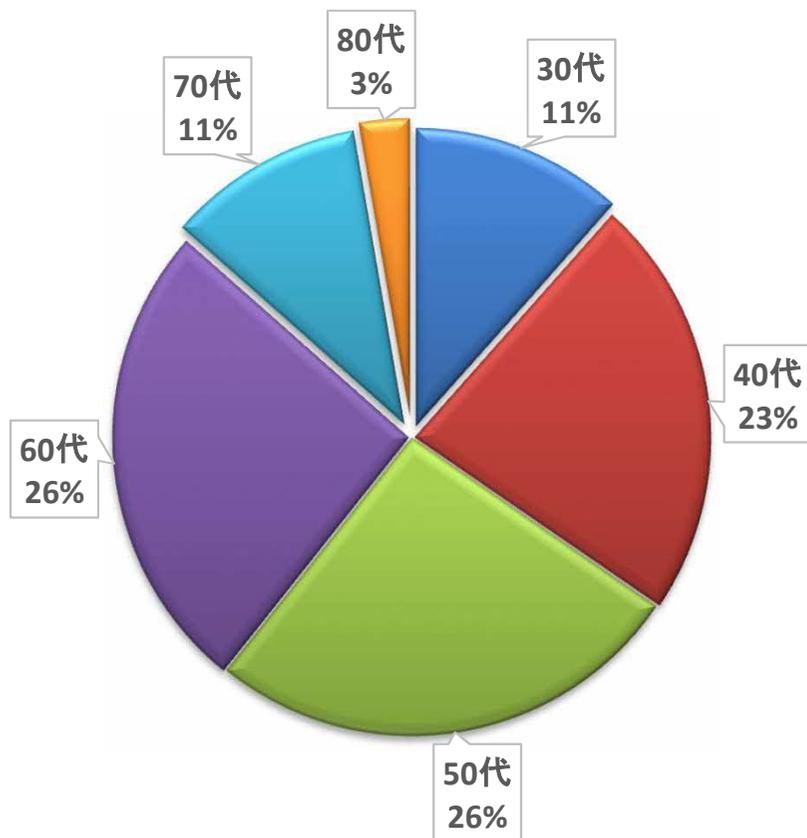
	全道	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	オホーツク	十勝	釧路	根室
水稻	188	58	23	20	2	0	32	16	37	0	0	0	0	0	0
麦・豆類	585	43	32	6	26	0	4	12	228	0	0	58	176	0	0
秋まき小麦	125	7	2	0	7	0	0	0	42	0	0	14	54	0	0
春まき小麦	81	0	4	0	3	0	0	0	49	0	0	4	21	0	0
その他(麦類)	27	2	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	8	0	0
大豆	292	34	25	5	12	0	4	12	93	0	0	31	76	0	0
小豆	42	0	0	0	1	0	0	0	15	0	0	7	18	0	0
その他(豆類)	17	0	0	0	2	0	0	0	13	0	0	1	1	0	0
野菜	851	97	109	48	22	0	75	10	216	11	4	147	111	0	0
ばれいしょ	157	7	13	9	1	0	0	1	71	0	0	27	28	0	0
だいこん	23	3	7	0	0	0	1	0	3	0	0	6	3	0	0
にんじん	48	5	10	1	1	0	0	0	13	0	0	12	6	0	0
ながいも	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
キャベツ	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
ほうれんそう	5	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0
アスパラガス	31	2	2	15	0	0	1	2	4	0	0	0	4	0	0
ブロッコリー	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
たまねぎ	124	44	7	0	3	0	0	1	23	0	0	46	1	0	0
かぼちゃ	282	17	31	6	8	0	62	1	66	8	0	38	46	0	0
トマト	27	6	5	3	1	0	1	1	9	0	1	1	1	0	0
スイートコーン	27	1	5	3	0	0	0	1	13	0	0	0	4	0	0
えだまめ	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
メロン	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
その他(野菜)	112	11	23	11	6	0	9	4	11	1	3	16	16	0	0
果樹	63	9	7	25	4	1	0	0	10	0	0	0	6	0	0
りんご	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
ぶどう	34	4	1	16	1	1	0	0	10	0	0	0	0	0	0
おうとう	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他(果樹)	28	5	6	9	3	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0
その他	3,486	2	114	10	4	200	261	127	296	2	0	1,284	496	469	221
そば	775	0	22	8	0	0	0	5	167	0	0	344	228	0	0
牧草	2,455	0	91	0	0	200	261	122	105	0	0	822	201	469	184
飼料用とうもろこし	153	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	115	0	0	37
その他(飼料作物)	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0
その他	88	1	1	2	4	0	0	0	24	2	0	3	52	0	0
計	5,173	209	285	108	58	201	373	166	787	13	4	1,490	789	469	221

II - 5 北海道有機農業の現状 ④【有機農業に取り組む生産者状況】

- 50歳以上の有機農業者が3分の2を占め、後継者のいない経営体も3分の2を占める。
- ただし、後継者を確保している有機農業経営体の割合は、全道の割合に比べて高い。

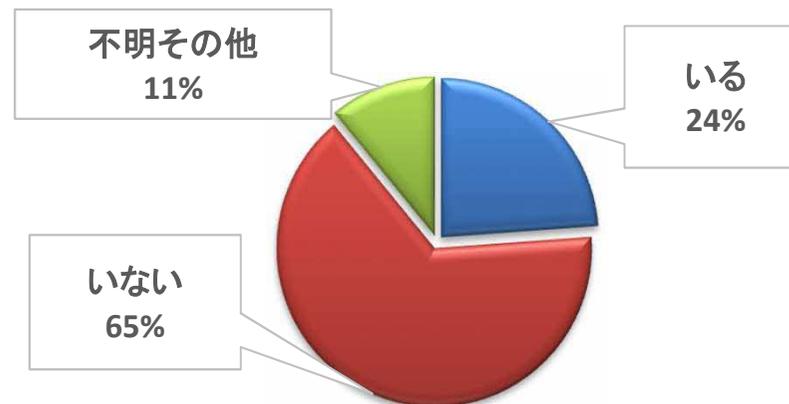
■ 有機農業に取り組んでいる担い手の年齢構成

有機農業者の年代別構成



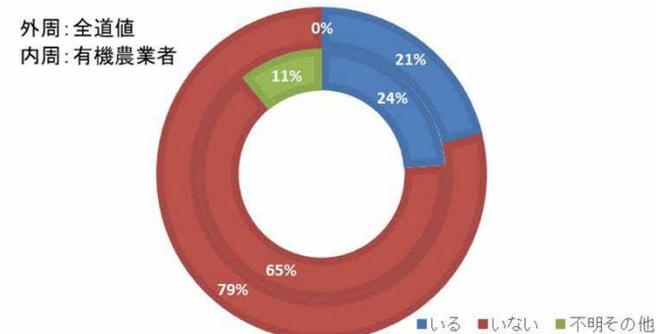
■ 有機農業者の後継者割合

有機農業者の後継者



■ 後継者割合の全道数値との比較

後継者確保の状況



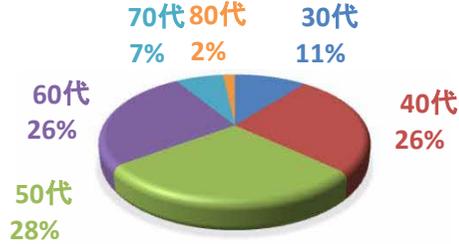
※北海道農政部調べ(市町村への調査結果) <R3(2021)年3月31日現在>
後継者割合の全道数値は、農林水産省「農林業センサス」 <R2(2020)年2月1日現在>

II - 6 北海道有機農業の現状 ⑤【品目別生産者年齢構成】

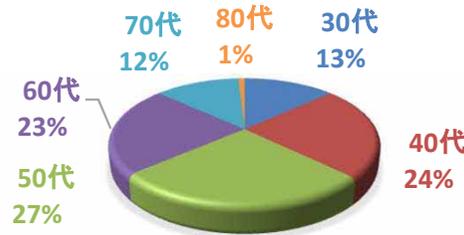
- 品目別に生産者年齢構成を見ると、30代40代の担い手が最も多いのは果樹。高齢になるほど品目が野菜、そばになる傾向。
- 担い手の平均年齢が低い果樹などは後継者確保率が低い一方、平均年齢が高いそばや飼料では後継者確保率が高い。

■ 品目別生産者年齢構成 (R3(2021)年3月31日現在)

品目別生産者年齢構成(水稲)



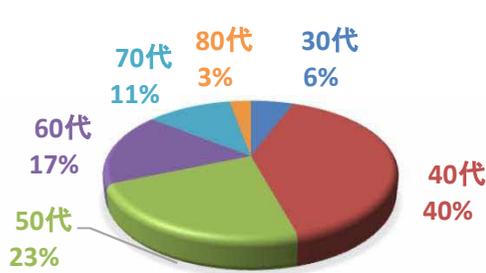
品目別生産者年齢構成(豆麦)



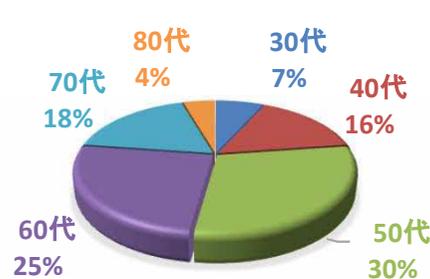
品目別生産者年齢構成(野菜)



品目別生産者年齢構成(果樹)



品目別生産者年齢構成(そば)



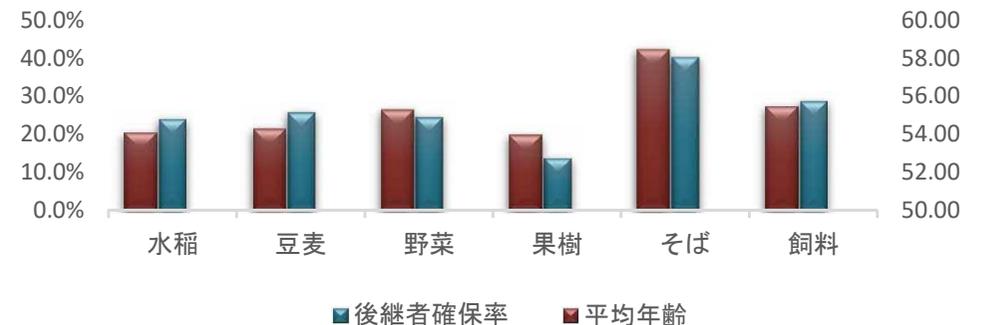
品目別生産者年齢構成(飼料)



年代別取組品目



品目別生産者平均年齢と後継者確保状況



II - 7 有機農業技術の開発・普及 ①

○ 有機農業を支える技術は、たまねぎの有機栽培技術(19年)や有機栽培露地野菜畑におけるリン酸施肥対応と総合施肥設計ツール(31年)の開発、越冬性緑肥の活用法と有機野菜への導入効果など、(地独)北海道立総合研究機構がこれまで31の技術を開発。

■ 有機農業技術の開発(R3年3月)

有機農業技術開発体系		成果		
有機農業技術開発	作物別栽培技術	12	施用有機評価技術 (12技術)	
	施用有機評価技術	12		
	経営経済評価	6		
	環境評価	1		
	計	31		
作物別栽培技術 (12技術)	1 水稲の有機栽培における生産安定化技術(19年)			13 有機質資材を用いたハウス夏秋どりトマトの無化学肥料栽培指針(19年)
	2 たまねぎの有機栽培技術(19年)			14 有機栽培露地野菜畑の窒素肥沃度指標の選定とその簡易分析法(19年)
	3 有機栽培かぼちゃの生産安定化(19年)			15 苗木枯病防除のためのpH制御と追肥による水稲有機育苗技術(23年)
	4 食用ばれいしょの有機栽培における安定生産技術(19年)			16 有機栽培露地野菜畑の土壌診断に基づく窒素施肥基準(23年)
	5 チモシー主体草地および飼料用とうもろこしの有機栽培法(19年)			17 有機栽培に対応した果菜類の育苗培土作成法(23年)
	6 自給粗飼料による授乳期母子羊の飼養法(19年)			18 畑輪作条件下での有機栽培における地力推移・作物収量・病害虫発生の特徴と雑草抑制対策(23年)
	7 化学農業によらない水稲の種子消毒法(22年)			19 有機栽培におけるたまねぎ・ばれいしょの窒素施肥基準と窒素負荷低減対策の実証(27年)
	8 たまねぎ有機栽培用育苗培土の利用技術(22年)			20 有機栽培畑における生産力向上のための緑肥活用法(27年)
	9 野菜の有機栽培における病害虫被害軽減対策－えだまめ、レタス、かぼちゃ、とうもろこし－(23年)		21 堆肥の施用時期と混和方法が畑作物の生育・収量に及ぼす影響(29年)	
	10 有機及び無化学肥料栽培こまつなにおける品質成分の変動と硝酸塩低減化(25年)		22 春全量施肥を前提とした有機栽培たまねぎの窒素施肥基準(29年)	
	11 たまねぎ有機栽培用育苗培土の利用技術(追補)(25年)		23 有機栽培露地野菜畑におけるリン酸施肥対応と総合施肥設計ツール(31)	
	12 醸造用ぶどうの有機栽培における病害虫の発生実態および防除の改善策(3年)		24 越冬性緑肥の活用法と有機野菜への導入効果(3)	
			経営経済的評価 (6技術)	
		25 水稲有機農業の経済的な成立条件(18年)		
		26 たまねぎ有機農業の導入による経営安定化方策(19年)		
		27 有機酪農への経営転換における生産者と関係機関の役割分担(19年)		
		28 赤身肉を目指した牛肉生産の経済性(19年)		
		29 有機農業を導入する小規模農業の担い手認定要件達成方策(22年)		
		30 有機トマトを導入する小規模経営の安定化方策(26年)		
		31 生物の多様性と水稲生産の調和を目指した冬期湛水技術の評価(23年)	環境評価 (1技術)	

II - 8 有機農業技術の開発・普及 ②

○ (地独)北海道立総合研究機構や農業改良普及センターと連携した「有機農業技術に関する現地研修会」の開催等により、技術情報の提供や意見交換などを実施。

■ 有機農業技術の普及活動

平成29年度開催概要

日 時: 平成29年8月17日(木)
場 所: 女満別町農業協同組合
(株)大地のMEGUMIほ場
参加者: 28名



- 1 試験研究発表
テーマ「春施肥で安定！有機たまねぎの窒素施肥法」
(道総研)農業研究本部中央農業試験場 櫻井研究主任
- 2 意見交換
- 3 現地ほ場視察
(株)大地のMIGUMI



堆肥場視察



デントコーンほ場視察



加工施設視察



加工商品

令和元年度開催概要

日 時: 令和元年8月6日(火)
場 所: 倶知安町中小企業センター
ニセコワイナリー農場
参加者: 53名



- 1 試験研究発表
テーマ「有機栽培の醸造用ぶどう園における病虫害発生実態調査の取組」
(道総研)農業研究本部中央農業試験場 西脇主査(クリーン農業)
テーマ「栽培方法の違いによる醸造用ぶどうの生育について」
北海道農政生産振興局技術普及課 吉岡主査(普及指導)
- 2 基調講演
テーマ「SDGs未来都市ニセコ町におけるニセコワイナリーのオーガニックスパークリング作りの取組」
ニセコワイナリー代表 本間 泰則 氏
- 3 意見交換会
- 4 現地ほ場視察
ニセコワイナリー農場



試験研究発表(左:西脇主査 右:吉岡主査)



ニセコワイナリーほ場視察(2ヶ所)

令和2年度開催概要

日 時: 令和2年8月20日(木)
場 所: 上川農業改良普及センター
(有)当麻グリーンライフ
参加者: 55名



- 1 試験研究発表
テーマ「有機野菜畑における越冬性マメ科緑肥の活用法」
(道総研)農業研究本部中央農業試験場 櫻井主査(栽培環境)
テーマ「安定確収を目指した秋まき小麦の有機栽培試験の取組状況」
(道総研)農業研究本部中央農業試験場 谷藤研究主幹
- 2 基調講演
テーマ「有機農産物を食材にした学校給食を通じた食育の地域づくり」
当麻有機農業を考える会 会長 福山寛人氏
テーマ「私たちが未来でいける人々のために何ができるのか」
(有)当麻グリーンライフ 代表取締役 瀬川 守 氏
- 3 意見交換会
- 4 現地ほ場視察
(有)当麻グリーンライフほ場 等



基調講演(左:福山会長 右:瀬川代表取締役)



水田ほ場視察



加工施設視察

II - 9 有機農業への参入・定着の促進 ①【有機導入の手引き】

- 有機農業への参入促進に関する情報提供や研修会を開催。

■「有機導入の手引き」シリーズ(大豆編・小麦編・水稻編)

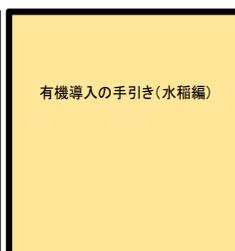
新規参入者の有機農業への取組や、慣行農業者の有機栽培に転換を図る際の具体的な情報として、先進農家の有機栽培事例などをもとに、有機導入のポイントや有機JAS取得に必要な情報をまとめた手引きを作成するとともに、セミナーを開催。



平成30年3月作成



平成31年3月作成



令和2年3月作成

■有機農業への転換の手引き

慣行栽培の農業者が国際水準(有機JAS水準)の有機栽培に取り組むに当たって、有機農産物の日本農林規格及び認証の技術的基準に基づく、有機JAS認証取得への手続き、各種記録の簡素化、使用禁止資材に該当しない資材評価、有機転換事例など必要な情報をまとめた手引きを作成するとともに、セミナーを開催。



令和3年3月作成

- 全道7地区で有機生産者等のネットワーク化を図り、各地域で技術研修会や有機JAS講習、消費者との交流などの活動を支援。
- 有機農業ネットワーク全道交流会では、地域を越えた有機農業者の交流や情報交換等を推進。

■各地域の有機農業ネットワーク組織

<主な活動>

- 研修事業等
 - ・研修会(現地視察研修、有機JAS取得促進研修 等)
 - ・情報交換会(生産者との意見交換会、有機技術発表会)
- 消費者との交流事業等
 - ・収穫体験交流会
 - ・有機農産物等を使用した料理試食会
 - ・消費者協会と連携したPR販売会
 - ・有機農産物の直売 等



全道交流会の内容は次のページ

II - 10 有機農業への参入・定着の促進 ②【ネットワーク】

■ 有機農業ネットワーク全道交流会

平成30年度 開催概要

日時：平成31年2月25日(月)
場所：かでの2・7(札幌市)
参加者：92名



ネットワーク活動事例発表



事例発表に伴う意見交換等



1 事例発表

- ア テーマ「かみかわ有機農業ネットワークの取組について」
上川農業改良普及センター 主査(情報・グリーン・有機) 小山 拓也 氏
- イ テーマ「オーガニックメロン小規模栽培の強み」
ウエダオーチャード 上田 聡 氏
- ウ テーマ「オホーツク有機農業ネットワークの取組について」
網走農業改良普及センター 主査(情報・グリーン・有機) 浅田 洋平 氏
- エ テーマ「有機加工食品認定取得から地域商品開発の取組」
合同会社 大地のりんご 代表社員 道山 マミ 氏

2 全体質疑応答・意見交換

コーディネーター 地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部
中央農業試験場 病虫部長 堀田 治邦 氏

3 情報提供

- ア 有機導入に向けた技術の組立て～有機農家にみる小麦の有機栽培～
NPO法人北海道有機農業研究協議会 専門委員 中野 長三郎 氏
(事例)有機小麦栽培の取組 2018
株式会社 斎藤農場 代表取締役社長 斎藤 正志 氏
- イ 有機JAS認証とGAPガイドラインとの差分審査について
NPO法人北海道有機認証協会 副理事長 武内 智 氏

令和2年度 開催概要

日時：令和3年3月19日(金)
場所：第2水産ビル(札幌市)
参加者：103名



ネットワーク活動事例発表



事例発表に伴う意見交換等

1 事例発表

- ア テーマ「十勝有機ネットワークの取組について」
十勝農業改良普及センター 主査(情報・グリーン・有機) 中川 涼子 氏
- イ テーマ「いずみ農園における有機農業の取組(学校給食等)について」
いずみ農園 泉 吉廣 氏

2 セミナー

- テーマ「新たな販路拡大 ～オンラインマルシェについて～」
株式会社 ポケットマルシェ 生産者/CS部 部長 中山 拓哉 氏

3 情報提供

- ア 「有機農業への転換の手引き」について
NPO法人北海道有機農業研究協議会 事務局長 山本 毅 氏
- イ 有機農業の推進に向けて
環境保全型農業直接支払交付金制度について
北海道農政部食の安全推進局食品政策課

4 全体質疑応答・意見交換